

ICTで快適観光

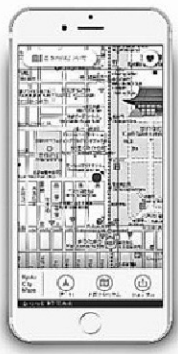
情報通信技術



情報通信技術を活用した観光サービスが、京都で広がりを見せている。街角に立つ観光案内板の情報と衛星利用測位システム(GPS)を組み合わせたスマートフォン向けの地図サイトや、訪日外国人の宿泊や買い物を手助けする通訳アプリが登場。観光客のおもてなしに一役買っている。

案内板とGPS連携 通訳や店案内アプリ

京都市は今春、市内264カ所に設置された観光案内板の地図をスマホで閲覧できるサービスを開始した。案内板に印字されたQRコードをスマホのカメラで読み取ると、杜寺や観光名所を詳細に記した地図サイトが画面に現れ、GPSから取得した現在位置が赤い円で示される。外国人向けに英語表記も添えている。



「京歩きマップ」の地図情報を表示したスマートフォン画面。現在地が赤い円で示される。観光案内板に印字されたQRコードをスマートフォンで読み取り、地図サイトにアクセスする(京都市下京区)

京でも広がり おもてなし、集客に期待

下京区)。観光マップや古地図のデータにGPSの位置情報に対応させ、地図アプリのように利用できるようにする技術を持つ。今回は観光案内板だけでなく、観光客向けに配られている「京歩きマップ」もスマホで表示できるようにした。

景にこの2年で大きく伸びた。今後は東南アジアの言語の通訳も手がけたい」と話す。

京都三条会商店街振興組合(同区)は4月から、店舗情報の表示や案内を行うスマホ向けアプリの実証実験に取り組んでいる。

サービスは今のところ実証実験の位置づけだが、市観光MICE推進室は「課題を把握した上で、さらに情報を充実させたい」と継続に意欲を示す。

情報通信ベンチャーのテクサー(同区)が開発したアプリを活用。店頭などに設置した小型の位置検出用デバイスが、アプリを起動しているスマホの電波を検出し、画面上の地図を通して所有者に現在の居場所を伝える。GPSの電波が届きにくい屋内やアーケードでも、利用できるのが特徴だ。店に近づくとクーポンやイベント情報をスマホに送るなど、集客につながる機能も搭載。中国で主流の電子決済システム「Alipay」に対応するほか、中国語の音声翻訳もできる。

ホテルや小売店、運輸サービス事業者などに通訳サービス「スマイルコール」を提供しているのは、インデンコンサルティング(中京区)だ。タブレット端末のiPadやスマホのiPhoneにアプリをダウンロードしておくと、訪日外国人客が来店した際にテレビ電話で通訳者となき、宿泊の手続きや観光地巡り、買い物などをサポートする。

将来的には、英語などの多言語に対応させる予定。10月にも本格導入する。同組合の田中正人理事長は「近くの二条城を訪れる観光客が、アプリをきっかけに商店街にも足を運ぶようになればいい」と期待している。

2012年にサービスを開始し、英語や中国語、韓国語など5カ国語に対応。今では京都市内のホテルや旅館をはじめ全国約500社以上に採用されたという。広報担当は外国人観光客の増加を背

(高野英明、小川卓宏)